

					授業コード*	1006			
授業科目	成熟期看護学概論 Nursing of Adults		責任教員 奥村 美奈子	単位数	2	科目区分	必修	科目履修	可
	時間数	60		開講セメスター	1				
目的と目標	目的：成人期への移行期である思春期から人間としての完成期である老年期までを成熟期ととらえ、この時期にある人々の健康生活の特性と看護活動の基本的考え方を理解する。 目標：1. 成熟期にある人々の健康生活の特徴について理解する。 2. 成熟期にある人々への看護活動の場と役割機能について理解する。 3. 成熟期にある人々の健康課題に応じた看護活動の特性について理解する。								
回数	学修課題	内容並びに方法						担当教員	
1～4	成熟期看護とは何かを理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟期看護学とは何か(目的・対象・方法)と科目全体の概説</li> <li>医療・福祉・労働の場で展開される成熟期看護の概要</li> <li>疫学・人口動態などの視点からみた成熟期の特徴</li> <li>成熟期の各区分について</li> <li>成熟期の発達課題の概説と関連する理論</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p>						奥村	
5～8	成長・発達過程からみた成熟期の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟期における各期(青年期・壮年期・向老期・老年期)の特徴</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p>						奥村	
9～14	青年期にある人々の健康生活と看護 壮年期にある人々の健康生活と看護 向老期にある人々の健康生活と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人期にある人々の特徴と看護の目標</li> <li>社会環境と成人の生活 働くことと生活、家族との関係、多様なライフスタイル</li> <li>青年期・壮年期・向老期に特徴的な健康問題と保健医療・福祉政策</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青年期・壮年期・向老期の健康生活を支援する看護(生活全体の理解) (グループワークと発表)</li> </ul>						梅津	
15～20	老年期にある人々の健康生活と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>老年期にある人々の特徴と看護の目標</li> <li>老年期にある人々のとらえ方</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>装具を用いた高齢者体験を通じて、老年期にある人の理解を深める</li> <li>視聴覚教材を通して老年期にある人の理解を深める</li> </ul> <p style="text-align: right;">(演習・DVD視聴)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老年期の人々の健康生活を支援する看護</li> <li>家族介護者の生活支援</li> <li>老年期の人々に関する社会制度</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p>						古川	
21～22	成熟期の人の健康課題に応じた看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の維持増進のための生活を確立する成熟期の人とその家族の看護</li> <li>健康の回復過程にある成熟期の人とその家族の看護</li> <li>生活の再編成が必要な健康障害をもつ成熟期の人とその家族の看護</li> <li>生活の再構築が必要な健康障害をもつ成熟期の人とその家族の看護</li> <li>人生の終末を生きる成熟期の人とその家族の看護</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義)</p>						梅津	
23～26	概論学外演習	* 概論学外演習要項参照						全教員	
27・28	概論学外演習における体験の発表と討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟期看護学概論学外演習における体験の共有と討議</li> <li>グループワークにおける体験の共有と発表に向けた資料作成</li> <li>グループワーク結果の発表と討議</li> </ul> <p style="text-align: right;">(グループワークと全体討議)</p>						全教員	
29・30	試験とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の習得状況の確認</li> </ul> <p style="text-align: right;">(試験・講義)</p>						奥村 梅津 古川	
評価方法	出席状況・グループワークなどへ参加状況・課題レポート30%、筆記試験70%の配分で評価する。								
参考文献	指定図書：看護学テキストNiCE 老年看護学概論 改訂第3版(南江堂 正木治恵、真田弘美編) 2020 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 成人看護学概論/成人保健 第7版 (メヂカルフレンド社 黒江ゆり子編) 2021 参考図書：看護のための人間発達学 第5版(医学書院 舟島なをみ 編) 2017 その他 随時紹介する								
事前準備	授業の1回目は、シラバス持参のこと								
受講要件									